



■ 自然科学書協会に期待すること

天文教育普及研究会会長 縣 秀彦

■ 朝倉邦造さんを悼む

彰国社代表取締役会長 後藤 武

■ 自然科学書フェア2016/

会員集会及び新年懇親会のご報告 ほか

2016.4.19 NO.2 (通算 80号)

一般社団法人 自然科学書協会 | 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 | 神保町 101 ビル 1階 | TEL 03-5577-6301 | http://www.nspa.or.jp/

● 自然科学書協会に期待すること ●

書きとどめよう 次世代に

天文教育普及研究会会長 縣 秀彦



○著者略歴

1961年生まれ。東京大学教育学部附属中・高等学校教諭等を経て1999年より国立天文台勤務。教育学博士。国立天文台准教授/普及室長。 h.agata@nao.ac.jp

一・天からのシグナル(文)を書き残す営み、それは天文学

遙か遠くの宇宙で二つのブラックホールが合体し、その際に発生した重力波が二〇一五年九月一四日に地球に届いた。それは史上初のブラックホールからの直接シグナル受信であり、かつ史上初の重力波検出であった。宇宙誕生の瞬間や超新星爆発の瞬間、中性子星やブラックホールの合体など、宇宙空間で重力が激変するような出来事が起こると、宇宙空間そのものがゆがむ。この空間のひずみが伝わるのが「重力波」であり、その存在はちょうど一〇〇年前にアインシュタインが予言していた。この歴史的快挙は今年二月一二日に発表された。発見した米国の重力波望遠鏡LIGO(ライゴ)の研究者たちは綿密なデータの確認や再計算の結果、宇宙からの重力波に間違いないと確信し、論文

として発表したのである。世界中の人々が驚き、日本の新聞も各紙一面トップで扱った。しかし、これは物語の終わりではなくて始まり、つまり重力波天文学の誕生を意味している。今から四〇〇年ほど前に、天体望遠鏡が初めて宇宙に向けてられたのと同じくらい重要な出来事とも言えよう。今回、重力波を捉えた米国の二台の重力波望遠鏡LIGOのみでは、その発生源を特定することは出来ない。ヨーロッパのVirgo(バーゴ)と日本のKAGRA(かぐら)という新しい重力波望遠鏡がLIGOと協力することで、その発生源を特定することが出来る。岐阜の神岡に昨年完成したKAGRAは、試験観測をすでに開始しており、本格的な運用が来年度から始まる。KAGRAはLIGOやVirgoよりもブラックホールの合体を見つけ出す能力が高く、関係者は毎月一つ以上も重力波を発見するかもしれないと胸を高鳴らせている。さらに、重力波天文学の発展によって、宇宙誕生そのものの謎が解き明かされるかもしれない。

二・歴史は書によって作られる？

書き残すことが重要

ところで、天体望遠鏡を最初に使ったのは誰だろう？ 日本に限らず世界中のほとんどの自然科学書には、イタリアの大科学者ガリレオ・ガリレイ(一五六四―一六四二年)の名前が記されている。一六〇九年一月三〇日に、ガリレオが手作りの望遠鏡で月を観察したことが、

彼が自ら一六一〇年に記した“Sidereus Nuncius”(『星界の報告』、岩波文庫)に書き綴られているからに他ならない。長年の間、世界中の人々がそう信じてきた。しかし、事実は異なる。英国の無名の天文学者トーマス・ハリオット(一五六〇―一六二一年)が一六〇九年七月二六日に天体望遠鏡を月に向けスケッチをとっていたのだ。

二〇一三年の秋、私はコペルニクスが活躍した街、ポーランドのワルシャワを訪ねた。国際会議の合間にワルシャワ大学周辺の古本屋街で大好きな古本屋巡りをしていった際、私は衝撃の事実を記した書物にめぐり合った。ポーランドで一七八八年に出版された書名“STUDIACOPERNICANAXVI”という自然科学書に掲載された論文に、一六〇九年のハリオットによる天体望遠鏡を用いた月面スケッチのコピーが掲載されていたのだ。ガリレオのスケッチと比較してみると、なるほど天体望遠鏡の性能やスケッチ力に差があったようにも感じられるが、歴史的な事実には驚愕し胸を高鳴らせて決して安くはない代金を支払った。それでも、誰かに盗られては大変とホテルまで胸に抱き締めて急いで帰ったことを告白したい。

ハリオットは彼自身にとつては極めて残念なことだが、天体望遠鏡での観察記録を含めその研究の多くを書き残していない。痛恨の極みではあるが、筆不精だったのだろうか。一方、ガリレオの偉大なところは、その観察力・洞察力の凄さ、

ものづくり技術の上手さに加えて、その多くを書き残したことにある。もちろんその筆の力によつて教会に睨まれ、宗教裁判にかけられたのも周知の事実だが。ガリレオは当時の学者の常識であつたら、テン語で書物を記すのではなく、市民でも読めるようにとイタリア語で多くの書物を記している。彼が世界で最初の科学コミュニケーションであると称される所以である。

### 三. 些細な思返しの営み——人生を決めた小学校の図書室

講演先や取材対応の際、「どうして天文に興味を持ったの?」と聞かれることがとても多い。一九六九年七月のアポロ一・二号月着陸の影響?生まれ育つた信濃大町の美しい星空のせい?幼少期の私に多大な影響を与えたのは間違いないが、それだけが原因なら同世代の大町市民は皆、天文ファンになつてゐるはずで論理的に矛盾してしまふ。白状するならそれは母校の小学校の小さな図書室にあつた自然科学書(つまり、分類ナンバー四の本たち)のおかげである。人見知りで赤面症の私は、極度に人に接するのが苦手な少年で、小学生の頃の野望は図書室の本をすべて読むことであつた。しかし、○ナンバーの棚から読み始めて四ナンバーの棚で留まつてしまつた。うろ覚えではあるが、例えば『宇宙の神秘』という本は卒業までに一〇回以上借りたように思う。あかね書房の「科学のアルバム」シリーズも大のお気に入りだつた。

つまり、自然科学書に親しんだことが私の人生を決めたと言つても過言ではないだろう。その思返しの気持ちもあつて星や宇宙に関しての解説書を一九九三年から書き始め、共著や翻訳、監修も含め、二〇冊を超える自然科学書(子ども向けの本を含む)の出版に関わつてきた。大好きな本の出版に関われることは望外の喜びである反面、酷い時は毎月一冊の出版をノルマのようにこなした時期もあり、当然ながらその際は体を壊した。執筆業というのは子ども頃の憧れの職業ではあるが、自然科学書のみの執筆で食べられる人は日本に何人いるのだろうと思う。編集者も大変だと思うが、書き手にとつても近年の過酷な出版事情に首を傾げたくなることも多い。

### 四. 今日の出版事情に思うこと

私が最初に手掛けた本は『天体観望ガイドブック 宇宙をみせて』(恒星社厚生閣、一九九三年)である。この時は企画を出版社に持ち込んでから、仲間と分担執筆し本が完成するまで二年以上かつたように記憶している。この本は二〇年後に新版が出版されたので良書と分類してもよいだろう。このように以前は自然科学書の場合、数年がかりの本作りは当たり前前だったのではないだろうか? 過去も現在も出版社の力量や方針またはその本の企画内容によつて制作期間が異なるであろうことも容易に推察される。例えば、二〇一三年に依頼を受けた星座解説のムックは、たった一カ月で二五〇

ページぐらゐを書き下ろせという依頼であつた。コンビニでワンコインブックとして販売され、著者としてはとても中身の濃い良い書籍と思つたが、たつた半年で絶版・裁断となつた。編集者の多くが、数カ月に一本どころか、毎月一冊のようなノルマを抱えて仕事をこなしている。これでは、余裕が無くて良い本が出来てはずはない。しかし、本屋で棚に置いていただけの日数は少なく、回転が速いため、妥協の産物として印刷したような粗悪な本であれ、出版しないと経営が回らないと聞く。まさに自転車操業状態。そして、売れ残つた大量の書物が裁断されていく。資源の無駄遣いもはなはだしい。

若い頃、執筆活動に対し「悪書が良書を駆逐する」とハラズメントまがいの妨害を教師仲間の先輩から受けたこともあるが、現在では、出版事情の悪さ、負の連鎖が良書の出版を阻害しているように思えてならない。何とかならないものだろうか?

良書と気づく前に絶版になつてしまふ不運な書もあるだろうが、一般論として自然科学書においては増刷を繰り返して長く棚に置かれる本をまずは良書と呼んでよいだろう。「悪書が……」と影口をたたかれていたころ、内心誇りに思つていたことは、二〇一〇代の頃に関わつた本のほとんどを増刷している実績であつた。しかし、四〇代後半からの一〇年間は、年間出版数が増えたことに比例するかのようになり、増刷がかかる本の割合が減つてゐる。つまり、編集者のみならず、執筆側も負の循環に組み込まれてゐるのである。じっくりと編集者と企画を詰め、時間をかけて熟成していつた書物のほうが結局は息長く棚に置いてもらへてゐる。出版社のみならず、書き手側も性根を据えて、この負の循環を断ち切らねばならない。

### 五. 物書きと編集者は使い捨て?

若い頃、私を鍛えて下さつた名編集者がいる。若くしてすでにお亡くなりになられた集英社の中村政編集長だ。懐が深く、締切迫る修羅場においても決して言葉荒げたりしない人格者であつた。そして何よりも博識。何冊か一緒に読んでいただいたが、終電を逃すこともしばしば。ちよくちよく銀座界限に飲み誘つてくれた。その際の豊富で味わい深い会話から、教養こそが人生の豊かさだと私は悟つた。当時、貧しかつた若輩者に対し、帰り際には奥さんにと寿司折をそつと持たせてくれた。粋を地で行く人だつた。中村さんと作つた本はすべて増刷になつたし、そのいくつかは日本のみならず、中国でも出版された。その後の中国の宇宙開発に僅かながらも寄与したのではと内心思つてゐる。

幸運なことに私は、その他にも何名か昔ながらの名編集者の方々と仕事をさせていただいたことがある。ご存命の方々は失礼があるといけないのでお名前を挙げることはしないが、私が最も誇りに思つてゐることは、一冊のみで付き合い終わった編集者は少なく、繰り返しご一

緒させていた方が多いこと。まことに素敵な編集者の皆さんと一緒に過ごしていた。しかし、優れた編集者ほど、バリバリと活躍している期間が短いのはなぜだろう。そして、平均的レベルとして編集者の力量が落ちてきてはいないだろうか？ 特に憂いていることは、下請けプロダクションや外注の個人契約の編集者にすべて任せっぱなしで、最初から最後まで執筆者と会おうともしない自然科学書出版社の社員が増えていることだ。執筆者との関係は冷え切っていて、これでは全く出版社の意図も熱意も伝わる訳がなく、良書が生まれるはずはない。出版社と編集プロダクション・個人との契約において、受け手側は限られた時間と安い報酬で精神的にも肉体的にも金銭面でも余裕が無いまま惰性で本を作り続けている。出版社に強くお願いしたいのは、編集者や物書きを使い捨てのように扱わないでほしいということに他ならない。特に若い編集者を大事に育ててほしいと心から願う。基本的な編集スキルや対人コミュニケーション能力に欠けた編集者が増えているような気がしてならない。

## 六．書きとどめよ！ 次世代に書き残すことは何か？

長年に渡って人類の教養と文化・文明形成に強く寄与してきた新聞業界にも出版業界にも秋風が吹いている。新聞購読数が激減しており、日本経済新聞など一部を除き軒並み経営が厳しいそうだ。イ

ンターネットの急速な普及によって、紙媒体は以前のように売れないばかりか、文字情報そのものが衰退しているとも聞く。SNSやネットニュース上の画像と動画のみで満足している人が増え、活字離れは深刻だ。しかし、デジタル情報は百年後、千年後に維持されている保証はどこにもない。さらにネット社会での人の知識なんて表層の限られた知識に過ぎない。文化・文明を維持することも覚束ないだろう。

「書きとどめよ！ 議論したことは風の中に吹き飛ばしてはいけない」  
これはガリレオが友人、カロシオ宛に送った手紙の一文である。ネット上の情報、電子出版もその簡便さから、頭の中を吹き飛んでいく程度でよい刹那的の知識・情報ならそれもよいだろう。しかし、紙に書いて（できればハードカバーのしっかりした装丁が望ましい。インクや紙も吟味して）、大事なことは後世に伝えよう。自然科学書出版界もネット上、雑誌、ムック、文庫などの使い捨てでもよいコンテンツ制作と、少し値が張っても、販売部数が即座に伸びなくても、後世に伝える重厚な良書作りにならうかが分かれていくことだろう。ぜひ、各出版社とも棲み分けし戦略を共有することで生き延びてほしい。自然科学書に育ててもらい、自然科学書出版に関わることを何よりも幸福と考える身として、僥倖ながら強くエールを送るものである。

## 自然科学書フェア二〇一六

今年の自然科学書フェアは、「自然科学書協会創立七〇周年記念」と銘打って、六月一日（水）から三〇日（木）まで、前年にグラントオープンした三省堂書店池袋本店で開催致します。書籍館四階にある常設イベントスペースを一カ月間貸切り、約一、〇〇〇点規模のフェアを展開する予定です。店頭陳列の展開だけでなく、外商部門との連携など積極的に取り組んでいただけることになっています。会員各社の出品参加と、会場に足を運びいただきますようお願い致します。  
(販売・出展委員会 御園英伸)

## 東京国際ブックフェア二〇一六

「第二三回東京国際ブックフェア」(TIBF)が、九月二三日（金）から九月二五日（日）までの三日間、東京ビッグサイト西ホールにて開催されます。本年は会期が二カ月半後ろ倒しになり、金曜日から日曜日までの週末開催となります（詳細は次号にてお知らせいたします）。  
(販売・出展委員会 二村忠彰)

## 会員集会及び新年懇親会のご報告

「第六五期第三回会員集会」および「新年懇親会」を二月二日に出版クラブ会

館にて開催しましたのでご報告します。「第六五期第三回会員集会」は、定刻通り一一時三〇分にスタートしました。冒頭、金原理事長のご挨拶では「自炊問題」など、協会として取り組むべき課題にも触れました。続く専門委員会報告では、五つの専門委員会と一つの特別委員会の責任者が、日頃の活動状況や今年の抱負、活動計画などを報告しました。

委員会報告の後は、今年の新機軸として、金原理事長から年頭所感をいただきました。約二〇分にわたり、各専門委員会報告の補足も含め、熱のこもった所感を拝聴することができました。この後、南條副理事長のご挨拶により会員集会は無事終了しました。

「新年懇親会」は一二時三〇分から別室にて開催しました。式次第に従い、金原理事長より開会の辞を頂いたあと、当協会後藤顧問のご発声による乾杯を経て、和やかな懇親の一時がはじまりました。新年会といっても月末の開催のため既に別の会合等で年始のご挨拶を済ませた方々もおられたようですが、懇親の場として有益な一時を過ごせたものと拝察いたします。宴たけなわの一四時三〇分頃、南條副理事長の一本締を以って、中締めとし、平成二八年の新年懇親会は無事終了しました。

何かとご多用の時期にもかかわらず、多数の会員社にご参集賜りましたこと、紙面を借りて御礼申し上げます。  
(総務委員長 飯塚尚彦)

# 朝倉邦造さんを悼む

もつ、私たちの「親父さん」はいない



朝倉邦造さんが一月三〇日に急逝されたとの報せに、ただ呆然とする時間が長く続いた。想えば、私が社長

長になりたてで業界のことは何一つ分からずに右往左往していたころ、たしか「出版共同流通」が設立された披露宴会場のことと記憶するが、「後藤さんこつちにおいでよ」と立ち上がって大声で声を掛けていただいていた以来、私は永く故人のご高誼と、数々の得がたいご指導にあずかってきた。

同氏が、日本書籍出版協会理事長・自然科学書協合理事長・出版厚生年金基金理事長・出版健康保険組合理事長・健康保険組合連合会副会長・トーン取締役等々多くの要職を担って出版界を牽引してきたきわめて得難い人物だったことはいうまでもないが、同時に私にとつて「親父さん」のような存在として映っていたというの、氏のお父上で朝倉書店創業者の朝倉鑛造氏と弊社創業者の下出源七とが旧来の盟友で遊び仲間だったから、そんな繋がりを背景に感じていたことであつて、朝倉邦造さんは弊社社員が「親父さん」と慕っていた下出源七のイメージと重なってみえていたのだつた。源七がそうだったように、邦造さんも同業の会の宴などで仲間にもまれ、みんな

なが酒を酌み交わしながら楽しく談笑している様子を見ることが、心やすまる嬉しいひとときだったように思われる。公務の会議が終わった後などでもあつたらうか「今日はこれからヒマだよ、どうだ」といふような電話がよく掛かつてきた。そこで私は、あちこちに緊急招集をかけて人集めを図つたのだが、集まつた人数が多かつた日などに氏は「やっぱり、みんな飲みたかつたんだらう」と、満足げであつた。

しばしばそんな楽しい時間をも過ごさせていただいていたのだつたが、昨年初頭からそうした電話が途絶えてしまった。病氣療養中とのことだったから遠慮してご無沙汰していたら、昨年秋口のある会議の席に車椅子でひよこりとお顔を出された。そしてその後も毎月開かれる会議に二回ほどお出でになられて、張りのある元気な声でお話しをされるご様子に「ご快癒」を感じて喜んでいたのでつたが、それから幾ばくも経ずに突然の訃報に接して驚愕させられるという悲しい事態に陥ってしまった。

本当に大切な人を亡くしてしまつて残念でたまらない。もう私たちの「親父さん」はいない。「後藤さんこつちへおいでよ」と呼ばれているような気もするけれど、そちらに行く日までもう少しお待ちください。また、お酒を酌み交わしながら語り合えるのを楽しみにしています。いまはまだ、在りし日の朝倉邦造さんの遺徳を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げる次第です。

(彰国社会長、当協会顧問 後藤 武)

## ■第六五期理事会・委員会開催一覧

(二〇一六年一月～三月)

### ●理事会

・二月二日(木)／一〇時～一二時二〇分 日本出版クラブ会館

・三月二七日(木)／一五時～一六時五〇分 日本出版クラブ会館

### ●専門委員会・特別委員会

・一月一四日(木) 七〇周年記念事業特別委員会／一三時～一四時 協会事務所

・二月四日(木) 七〇周年記念事業特別委員会／一三時三〇分～一四時三〇分 文化産業信用組合

・二月一九日(金) 七〇周年記念事業特別委員会祝賀会小委員会／一七時三〇分～一八時三〇分 汐風

・二月二二日(月) 販売・出版委員会自然科学書フェア小委員会／一六時～一七時三〇分 文化産業信用組合

・二月二五日(木) 販売・出展委員会国際小委員会／一六時一五分～一七時三〇分 文化産業信用組合

・三月四日(金) 七〇周年記念事業特別委員会誌小委員会／一〇時～一二時 文化産業信用組合

### ■事務局だより

#### 〈代表者の変更〉

### ●株式会社朝倉書店

旧代表者：朝倉邦造 新代表者：朝倉誠造

#### 〈代表者／当会代表者の変更〉

### ●金原出版株式会社

旧代表者：古谷純朗 新代表者：福村直樹

## 訃報

朝倉邦造様(朝倉書店社長)が平成二八年一月三〇日にご逝去されました(享年七九歳)。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和五十三年に当協会理事就任、その後常務理事・専務理事・理事長・顧問等を長きにわたり務められました。また、平成二二年には旭日中綬章を受章されております。

ここにご生前の朝倉邦造様の当協会への多大なるご尽力とご貢献に深謝申し上げ、改めて敬意を表します。

## 編集後記

### 「道明寺」

上京して八年めの春に、初めてその正体を知った。

桜餅のことだったとは。

東京ではなぜこれを「道明寺」というのだろうか？そして、なぜお寺の名前が？

そもそもは関西で、千年以上も前に、大阪の道明寺の尼さんが、もち米を乾燥させ、粗い粉にして作ったものが、由来とか。一方、関東でいう桜餅は、餡子をピンク色のクレープ状の生地で巻いたもの。こちらは江戸時代、向島にある長命寺の門番をしていた人が考案したのが由来で、「長命寺」ともいうらしい。西で生まれたものと、東で生まれたものとを区別するために、呼び方を変えてきたようだ。

ちなみに、わが地元北海道の桜餅はというと、姿形は西の「道明寺」と同じ。江戸時代、北前船により、大阪商人によつて運び込まれた、という説が有力のよう。ただし呼び名は「桜餅」。(M・M)

